

6 ポンカン

(1) 生産目標

品種・系統	10a当たり収量	精果率	階級割合	糖度
太田ポンカン 吉浦ポンカン	3 t以上	95%以上	L 80%以上	12度以上

(2) 経営指標及び労働時間

経営指標 (10a 当たり)

項目	大田ポンカン
①出荷量(kg)	3,000
②販売単価(円) ※1	243
③粗収益(円)	729,000
④経営費(円)	312,639
⑤農業所得(円)	416,361

※1 平成22年～令和元年の平均単価

ア 販売価格の推移

(単位:kg当たり円)

年次	H22	23	24	25	26	27	28	29	30	R1
単価	256	220	217	169	262	313	235	265	258	238

(H30 まで: 全農山口扱い、R1: J A山口県扱い)

イ 経営費の内訳

経営費の内訳	金額	備 考
肥料費	38,287	販売費用内訳 賃借料・料金 75,000 包装資材費(円/10a) 24,000 運賃(円/10a) 5,250 手数料(円/10a) 80,190 合計 184,440 賃借料料金は選果経費であり、25円/kg 包装資材: 箱7円/kg、その他資材1円/kg 運賃: 1.75円/kg 手数料: 市場7%、JA4%
農業薬剤費	42,829	
光熱動力費	12,240	
諸材料・小農具費	6,750	
償却費(育成費のみ) ※2	18,479	
土地改良・水利費	4,741	
販売費用	184,440	
管理費用	4,873	
合計	312,639	

※1 雇用労賃は、品種、作型の組み合わせによって変動するため計上していない。

※2 償却費のうち施設、機械償却費は、経営面積によって作目ごとの負担額が変動するため、計上していない。

※3 燃油肥料価格高騰のため、18年度と20年度の価格差から一部修正

ウ 投下労働時間 (10a 当たり時間)

(ア) 月別労働時間

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
32.0	2.0	29.0	4.0	5.25	2.5	24.25	28.5	0.25	2.0	3.25	40.0	173.0

(イ) 作業別労働時間

整枝 せん定	施肥	中耕 除草	防除	摘果	防風垣 管理	土壌 改良	収穫	選別 出荷	園内 管理	合計
20.0	7.0	15.0	14.0	40.0	3.0	2.0	35.0	25.0	12.0	173.0

(3) 重点推進事項

事 項	推 進 内 容
1 無毒苗の定植	タターリーフウイルス等無毒の母樹から採穂・育苗した苗木を定植する。
2 整枝・せん定	1 樹勢維持と花芽分化促進のために、樹形は開心自然形に整枝する。 2 誘引 主枝の角度は70～80度とし、垂主枝は20度の角度で横に十分張らせ、間隔は1m以上開ける。 3 せん定 強せん定や切り返しの多用は避け、徒長枝や内向枝の間引き程度にとどめる。長大な側枝を切り返す際には、必ず緑枝のあるところで行う。
3 摘果	生理落果終了後に始める。あら摘果7月上旬～中旬、仕上げ摘果8月中旬～9月中旬を目安とする。特に着果が多い場合には初期肥大が抑制されるので、徹底した摘果が必要である。最終葉果比は100を基準とする。
4 施肥と土壌管理	1 施肥・土壌改良 施肥量は温州みかんよりやや多めとするが、樹勢や土質により加減する。中耕や有機物の施用により、通気や排水を良くして細根を増やし、安定した樹勢を維持する。 2 微量元素 微量元素欠乏症は温州みかんより多い傾向にある。銅、マンガン、亜鉛などは葉面散布剤等により補給する。 3 土壌水分管理 土壌水分は9月までは充分保持出来るように努め、果実肥大を促進させ、10月以降は軽く乾燥させる。ただし極端な乾燥は果実の肥大不良や、ス上がりの原因になるので注意する。
5 病虫害防除	病害では黄斑病、そばかす病にやや弱く、害虫では、ミドリヒメヨコバイの被害が多い傾向にあるので重点的な防除を行う。その他の病虫害防除は温州みかんに準ずる。
6 収穫・予措・貯蔵	1 近年、ヤケ果の発生が増加しているため、収穫が遅れないように適期収穫に努める。 2 予措は5～7%とする。加温予措を行う場合には、温度15℃、湿度75～80%、減量程度は5～6%とする。 3 貯蔵は温度5～8℃、湿度75～80%の条件で行う。貯蔵中の高湿度は、予措戻りを助長するので注意する。

(4) ポンカン作業

月	旬	生育状況	作業名	作業の内容
1月	上	花芽分化期	寒害対策	防風ネットの補修、設置、寒風を受けやすい所では、寒冷紗等で被覆を行う。
	下		貯蔵管理	貯蔵果の点検、庫内の温度及び湿度(5～8℃、75～80%)の管理。過湿条件では予措戻りしやすいため、適正な温湿度管理をする。
2月	上		石灰及び苦土の施用	土壌酸度の矯正目標はpH5.5～6.0で温州ミカンに準じて行う。苦土欠症状態が見られる園では苦土石灰を施用する。石灰資材施用後は軽く混和する。ただし極端な断根は樹勢が低下するので避ける。
	下		有機物の施用と中耕 かん水	中耕と有機物の積極的な投入により、通気や排水を良くして細根をふやし、樹勢を強化する。 乾燥状態が続く場合は、花器の充実を促進するためにかん水を行う。
3月	上		整枝・せん定	若木の枝は立性になりやすいので、横枝確保のために誘引を行う。
	下		苗木の植え付け 春肥施用	苗木は健全な苗を入手する。根を乾かさないように植え付けを行う。植え付け後の乾燥を防ぐため敷草やかん水を行う。 樹勢や前年の結果状態や土壌条件など考慮して、施肥基準を参考に3月下旬～4月上旬に施用する。
4月	上	発芽開始	中耕・除草	軽く中耕を行い地温上昇を図る。
5月	中	開花	土壌侵蝕の防止	梅雨期に入る前に畦畔及び排水溝の整備を行うと共に、敷草や草生によって土壌流亡を防止する。
	下	生理落果始め 根の伸長始め		

6月	中	緑化完了	夏肥施用	樹勢や結果状態、土壌条件を考慮して施肥基準を参考に施用する。
7月	中	生理落果終了	あから摘果	若木、更新初期は樹冠上部の摘果を強めにして、樹勢維持に努める。目標葉果比は100とし、全摘果量の70%を摘果する。
	下	夏芽伸長開始	除草	繁茂した雑草は、梅雨明け後早目に除去する。
8月	上		防風樹の刈り込み	密閉度60%程度に刈り込む。
			かん水	無降雨日数15日を目安にかん水を行う。
			台風対策	防風樹、防風垣の補修、補強をする。苗木や高接樹に支柱を立て誘引し、樹体被覆用の資材を用意する。排水、集水路の整備と潮風被害軽減のため散水施設の点検をする。
	中	秋芽伸長開始	仕上げ摘果	大玉果、無傷果生産を目標に仕上げ摘果を実施する。裾枝や内成り果及び傷果、小玉果を摘果する。
9月	上		初秋肥施用	結果状態を考慮して、施肥基準を参考に施用する。
	中	根の伸長期	かん水	乾燥が続く場合には、減酸促進のためにかん水を実施する。
10月	上		樹上選果	この時期から収穫直前まで継続して実施する。
	中		夏秋梢の処理	翌年結果過多が予想される樹では、秋枝の再発生が無くなる時期に切り返す。
11月	上		秋肥施用	結果量の多い樹、樹勢の弱い樹では早目に、結果量の少ない樹でも中旬までには施用する。
	下	着色開始		施用量は、結果量を考慮して施肥基準を参考にを行う。
12月	中		採収	中～下旬にかけて、8分以上の着色の良いものから区分採取を行う。特に果皮が傷つきやすいので丁寧に採取する。近年、ヤケ果が増加しているため、適期収穫に努める。
			予措・貯蔵	予措は5～7%とする。加温予措の場合は、温度15～17℃、湿度75～80%、予措程度5%とする。予措戻りに注意する。貯蔵温度は7℃、湿度は75～80%とする。

(4) 施肥基準

ポンカン（成木）10a 当たり施用量

施肥時期	時期別割合 (%)			成分量 (kg)			施肥上の注意
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	
春 肥 (3月下旬)	30	30	20	8.4	4.5	5.0	(1) 成木園10a当たり収量3,000kgを 基準とする。 (2) 開花始めから生理落果終了時までN成分10%程度の液肥を300～500倍で3回散布する(初期肥大の促進)。
夏 肥 (6月中旬)	30	20	30	8.4	3.0	7.5	
初秋肥 (9月上旬)	20	30	30	5.6	4.5	7.5	
秋 肥 (11月上旬)	20	20	20	5.6	3.0	5.0	
計	100	100	100	28.0	15.0	25.0	

結果幼木の施用量は表中施用量の1/2、未結果幼木は1/4程度とする。

(6) ポンカン品種特性表

品種・系統名	原産地及び来歴	果実の特性	樹の特性	栽培上の注意事項	収穫期及び可食期
太田ポンカン	静岡県清水市 大田敏雄氏 庵原ポンカンの枝変わり 昭和22年発見 清水市農協 昭和58年5月 品種登録	低しょう系ポンカン、果形指数120、果実の大きさ140g程度。果皮はポンカンとしては滑らかな方で果梗部のネックもほとんどない。自家結実性が高く、無核が多い。	樹勢はや弱い。葉は小型。 結果過多になると小葉となる。 樹姿はやや立性である。	摘果を十分しないと小葉となり、隔年結果の原因となる。	収穫期 12月上旬～12月中旬 可食期 12月下旬～2月上旬
吉浦ポンカン	大島郡橘町(現周防大島町) 浜本輝明氏 氏が昭和17年頃台湾から導入した品種の中から選抜。	高しょう系ポンカン、長球形で170g程度になり、ポンカンとしては大果系である。 完全着色期は12月下旬、糖酸ともやや高く、食味は濃厚である。 貯蔵性は高い。	他の高しょう系ポンカンと比較して、樹形は立性で、樹勢はやや強い。 葉は中～やや大である。	隔年結果性は比較的低い、大果生産と連年結果のために、早期から数度、摘果を行う。	収穫期 12月下旬 可食期 1月下旬～2月下旬